百尺竿頭に一歩を進む

禅宗の書籍『景徳伝灯美録(けいとくでんとうびろく)』に登場する禅僧・長沙景岑(ちょうさけいしん)の言葉



恩師 青木國雄先生書 昭和壬戌年(1982年)浜島の結婚を祝って

医療行政学 浜島信之

浜島信之 41年間の略歴

1980年 名古屋大学卒業

1984年 名古屋大学医学研究科博士課程修了(医学博士)

名古屋大学医学部予防医学 助手

1986年 ワシントン大学公衆衛生学修士修了(MPH)

1987年 名古屋大学医学部予防医学 講師

1991年 岐阜大学医学部公衆衛生学 助教授

1992年 シドニー大学公衆衛生学 研究員

1993年 愛知県がんセンター研究所疫学部 室長

2003年 名古屋大学大学院医学系研究科予防医学 教授

2012年 名古屋大学大学院医学系研究科医療行政学 教授

2021年 名古屋大学 定年







2003



1985-86 1990

1992-93

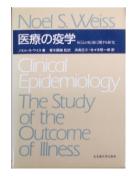
2012

浜島信之 業績 2020年12年31日現在

英語原著論文	540編	和文原著	32編
第一著者	47編	和文総説	107編
英文総説	21編	和文著書分担	26編
英文著書分担	7編	和文その他	21編
英文その他	6編	翻訳	4編
合計	574編	合計	190編

Scopusデータ (2021年2月28日現在) 文献数 644, 被引用数 17,620, h-index 64









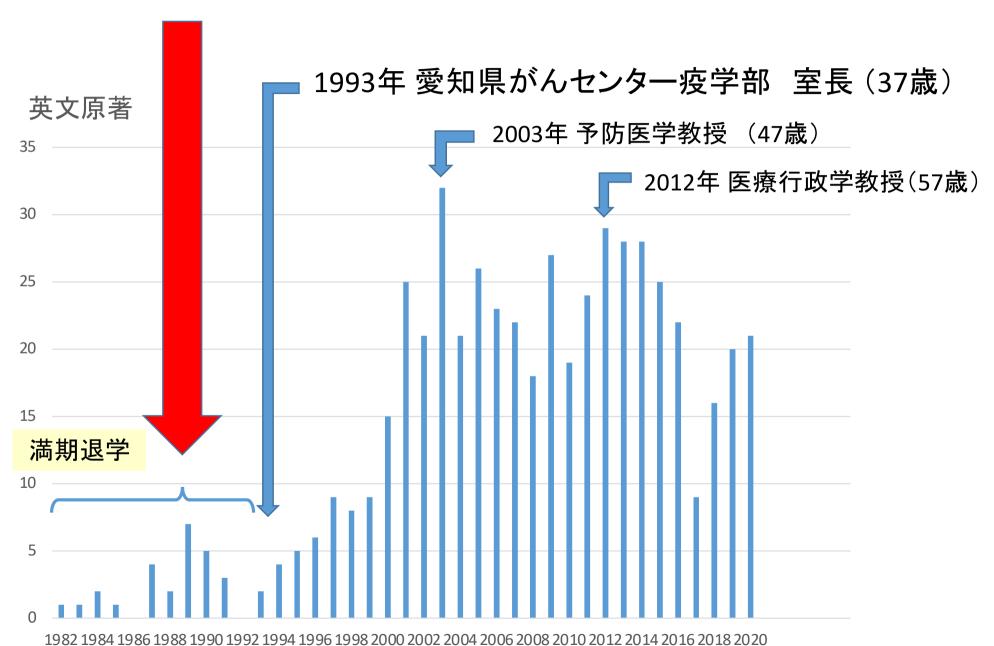
1987

1990

1993

癌と化学療法社

好き勝手をしていた時期

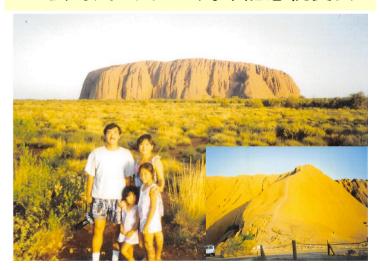


好き勝手をさせていただけた時期

- •大学院生
- 1) 住民健診:北海道八雲町 (2013年までに英語原著論文 89編)
- 2) 血液の疫学: 再生不良性貧血と クロラムフェニコール
- アメリカ留学:公衆衛生学修士 「医療の疫学」翻訳出版 「多変量解析による臨床研究」出版
- 司法試験挑戦
- 岐阜大学公衆衛生学: 医事法学
- ・オーストラリア留学: 臨床試験の理論 「無作為割付臨床試験」出版



平成23年8月25日 八雲町民ドック30周年記念祝賀会



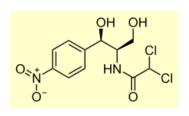






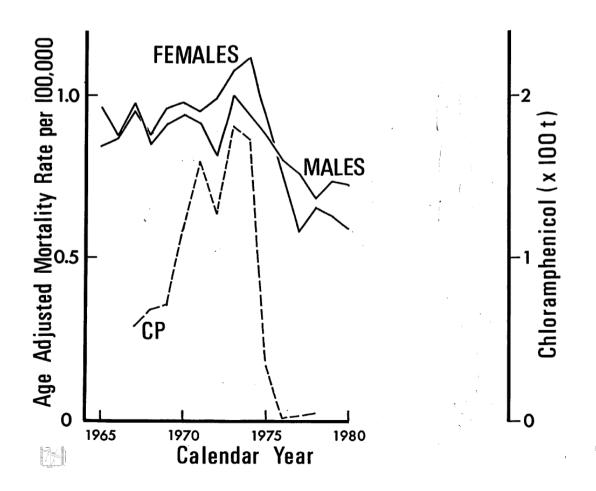


1988 72: 995-999



A notable change in mortality of aplastic anemia observed during the 1970s in Japan

N Hamajima, R Sasaki, K Aoki and A Shibata



Aplastic anemia and chloramphenicol

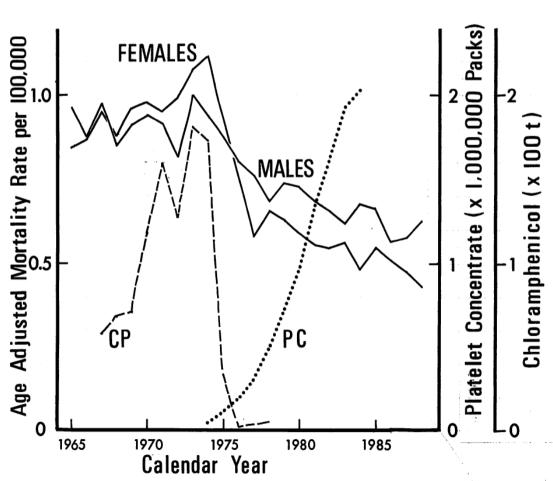
再生不良性貧血と クロラムフェニコール

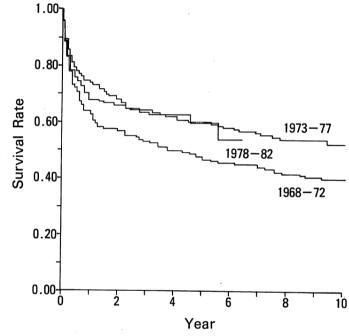
Epidemiologic evidence

1988 72: 995-999

A notable change in mortality of aplastic anemia observed during the 1970s in Japan

N Hamajima, R Sasaki, K Aoki and A Shibata





No reduction in the incidence was observed; at least among children, the incidence was constant.

発生率の減少は観察されていない。少なくとも小児では一定。

戦後の薬害事件の概要と教訓

土 井 脩

(医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団)

Pharmaceutical and Medical Device Regulatory Science Society of Japan

2019.01.01

(レギュラトリーサイエンス エキスパート研修会・薬害教育)

研修用教材としてまとめたものであり、公式見解などをまとめたものではありません。理解を助けるため、説明の 簡略化、現象の単純化などを行っています。記録を目的としたものではありません。

https://www.pmrj.jp/publications/02/shiryo_slides/yakugai_shiryo_sengo.pdf

1975年 クロラムフェニコールによる再生不良性貧血

が社会問題化

1975年8月 訴訟提起

1988年 死亡率の減少はクロラムフェニコールの使用

減少によるものではないという論文掲載

1989年 和解成立

平成3年8月15日

第38巻 日本公衛誌 第8号

疫学と民事裁判

浜島 信之*

Ⅱ 米国における民事裁判での事実認定

米国における民事訴訟で事実認定が争われる場合には、"preponderance of evidence"(証拠の優越)という考え方が用いられる。この考え方は"more likely than not"(あったということがなかったということよりもよりありそうである)のルールとか"50.1 percent or more probability" (50.1%以上の確率)のルールと表現される4.5)。

302

第39卷 日本公衛誌 第6号

平成4年6月15日

Effect Modifier 存在下での寄与危険度割合と法的因果関係

浜島 信之*

浜島信之: Effect Modifier 存在下での 寄与危険度割合と法的因果関係. 日本 公衆衛生雑誌 39: 302-306, 1992

疫学と民事裁判.

日本公衆衛生雑誌 38: 541-545, 1991. 浜島信之

I 米国における民事裁判で の事実認定

米国における民事訴訟で事実認定が 争われる場合には、"preponderance of evidence"(証拠の優越)という考え 方が用いられる。この考え方は"more likely than not"(あったということがな かったということよりもよりありそうで ある)のルールとか"50.1 percent or more probability"(50.1%以上の確率) のルールと表現される。

即ち、相対危険度が2以上。

現代医学 医法律学入門 6回シリーズ

医法律学入門

〔I〕刑事事件

浜 島 信 之*

- (I) 刑事事件. 現代医学 42: 185-189, 1994.
- (II) 民事裁判. 現代医学 42: 367-370, 1994.
- (III) 民法における損害賠償責任. 現代医学 43:581-585, 1995.
- (IV) 医師法で定められた医師の義務. 現代医学 43: 195-198, 1995.
- (V) 説明義務. 現代医学 43:435-439, 1995.
- (IV) 医師の裁量. 現代医学 43: 623-627, 1996.

日本医事新報 No 3504 (平成 3.6.22 日)



国の病院における

信ぶ

供者側の過失を問う医事紛争が 帰をとっ 質の高い医療を求める声が多 第に高まり、 ってきた。それに伴い て有効な治療方法が確立してくる 々に多くなってきているDo 医療技術が発展し、 た患者の中から、 医療に対する期待が次 般国民 の中によ 疾病に対 不幸な転 医療提 m

> の活動、 目的、 背景につ 月から二月にか 重要にな て収集した資料をもと て紹介する。 本稿では、 R M って て述べ、 著者が いるか を支える団体に けて米国 ネ わ R M M 在

リスクマネ ジメ 1 0 誕 生

門分野として確立するに至 由を理解するため 米国においてRMが独立し てみよう。 Ę R M 力的 -

九七〇年代の初め、

不法行為法の制定が、

医療過誤保

てきた。

医療過誤訴訟に関する

り医療過誤裁判が

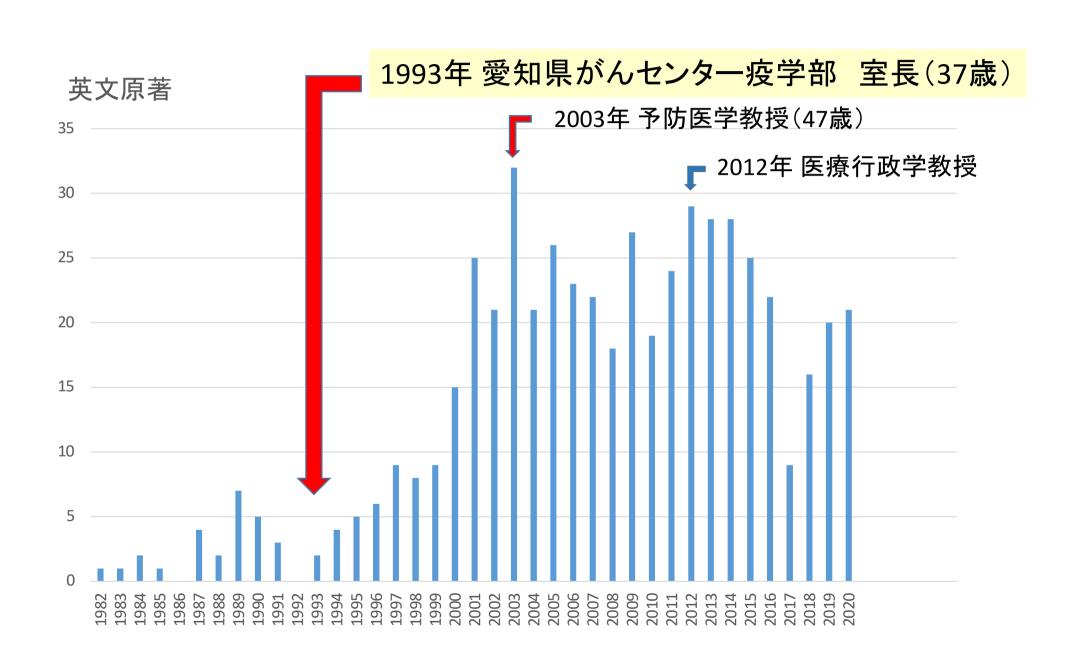
米国においては、

二〇年以上前

2002年岐阜大学公衆衛生学50周年記念



浜島信之 業績



愛知県がんセンター研究所 疫学予防部



Hospital-based Epidemiologic Research Program at Aichi Cancer Center (HERPACC)

愛知県がんセンター病院初診患者を対象とした 生活歴調査と研究目的<u>血液</u>提供依頼。

がん患者と非がん患者を比較した症例対象研究。非がん患者の追跡によるコホート研究。

方法論研究

造血細胞移植学会の全国調査

1994

症例対象研究においてMatched controlは有用か?

Hamajima N, Hirose K, Inoue M, Takezaki T, Kuroishi T, Tajima N. Case-control studies: Matched controls or all available controls? J Clin Epidemiol 47: 971-975,

棒:100回繰り返し

点線:1000回繰り返し

コントロールのデータが手元 にあるのであれば、matched controlは検出力がさがり有 用でない。

血中成分、遺伝子型決定を 測定しなければならないの であれば、費用と時間の点 からmatched controlがよ い。 251症例と4,100の対照:答はすべてのコントロールを使用した時

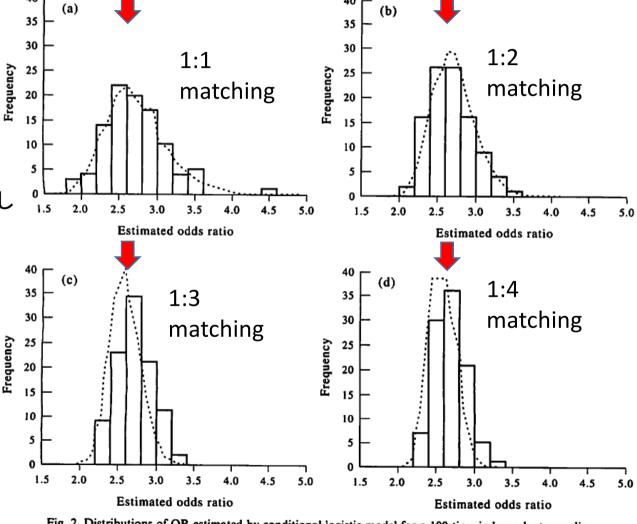


Fig. 2. Distributions of OR estimated by conditional logistic model for a 100-time independent sampling (bars) and a 5000-time independent sampling (dotted curve): (a) 1:1 matching, (b) 1:2 matching, (c) 1:3 matching, and (d) 1:4 matching.



一般社団法人 日本造血細胞移植学会

2014年

表1 移植種類別報告件数の年次推移

Reported transplants according to year of transplant by mode

移植種類 Mode of transplent	≦1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
自家移植 Auto-transplant	831	408	520	637	710	918	992	1,126	1,102	1,133
血縁者間骨髄移植 Rel·BMT	1,632	513	530	654	603	597	578	609	619	475
血縁者間末梢血移植 Rel·PBSCT	1	5	2	5	40	118	144	157	197	496
非血縁者間骨髄移植 UR-BMT	26	36	85	181	340	374	407	459	549	679
同種臍帯血移植 Allo-CBT	0	0	0	2	4	9	14	73	112	172
その他 Others	5	2	1	0	8	18	32	32	29	20
合計 Total	2,495	964	1,138	1,479	1,705	2,034	2,167	2,456	2,608	2,975

http://tsubasa-npo.org/hirobaPDF/ Newsletter16 07.pdf 2021.6.10

移植種類 Mode of transplent	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
自家移植 Auto-transplant	1,092	1,070	1,175	1,169	1,382	1,613	1,631	1,561	1,610	1,643
血縁者間骨髓移植 Rel-BMT	378	339	422	456	514	489	494	486	430	442
血縁者間末梢血移植 Rel·PBSCT	777	914	719	568	576	536	468	537	555	656
非血縁者間骨髓移植 UR-BMT	722	731	702	782	899	933	983	1,085	1,199	1,194
同種臍帯血移植 Allo-CBT	203	268	597	700	663	718	746	806	856	1,007
その他 Others	25	21	18	18	18	12	12	4	12	11
合計 Total	3,197	3,343	3,633	3,693	4,052	4,301	4,334	4,479	4,662	4,953



日本造血細胞移植データ センター・センター長 熱田由子先生

遺伝子多型研究開始

http://www.tomizo.or.jp/page036.html 2021.5.28



高橋利忠先生



小幡裕一先生

1999年11月夜10時



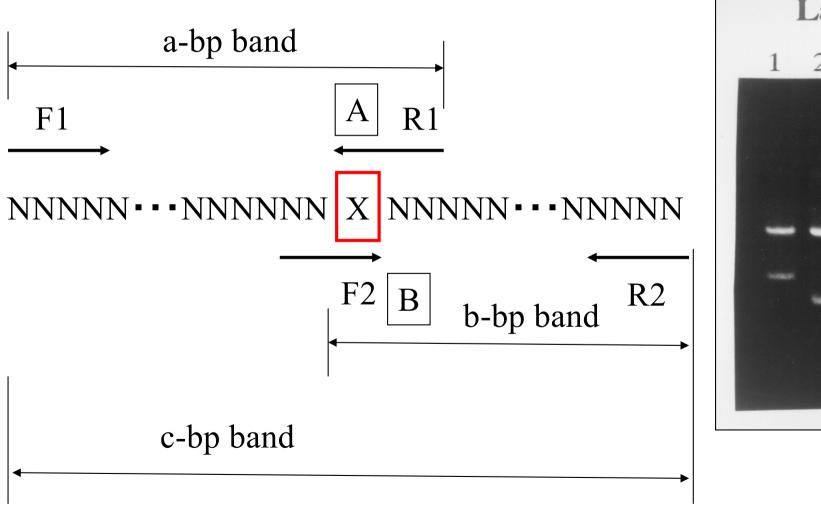
浜島君、ここは研究所だから英語の研究論文を書かなければだめなんだ。一生懸命仕事しているのはわかるが、教科書を書いたり、日本語の論文では評価されない。最近、研究員の評価が行われたが、君は室長にもかかわらずワースト5の中に入っている。このNatureのIL-1Bの論文を読んで、小幡先生がPCRの方法をおしえてくれるからPCRを覚えなさい。

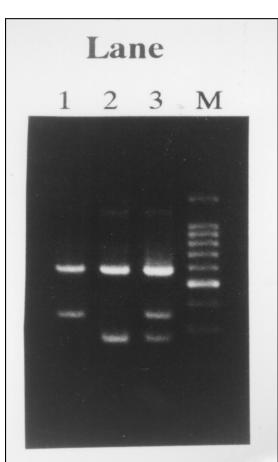
その後、3か月間はほぼ毎日PCR。朝9時スタートで96検体のPCR-RFLPのゲル写真ができるのは夜10時頃。

12月31日夜、ゲルにほとんどバンドが見えず。

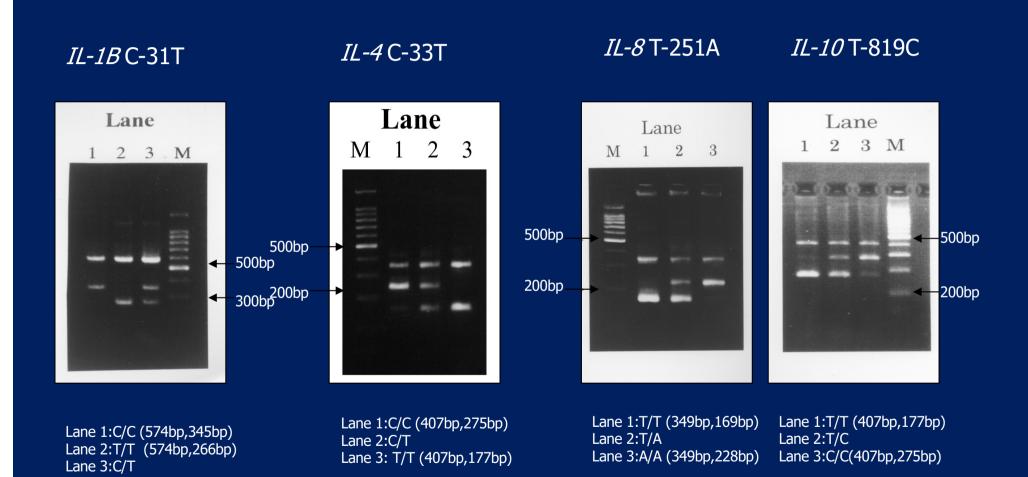
PCR-CTPP: PCR with confronting two-pair primers

<u>Hamajima N</u>, Saito T, Matsuo K, Kozaki K, Takahashi T, Tajima K. Polymerase chain reaction with confronting two-pair primers for polymorphism genotyping. Jpn J Cancer Res 91: 865-868, 2000.





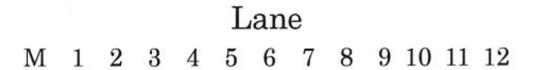
PCR-CTPP Genotyping

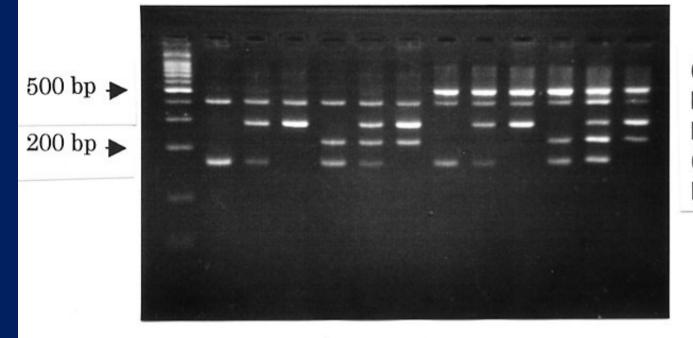


Multiplex PCR-CTPP

- 1. ALDH2 Glu487Lys + ADH2 Arg47His
- 2. ALDH2 Glu487Lys + L-myc L/S (G2886T)
- 3. *ALDH2* Glu487Lys + *TNF-B* A252G
- 4. CYP2E1 Rsal + IL-2 T-330G
- 5. *GSTM1 + GSTT1 + NQ01* C609T
- 6. *IL-1B* C-31T + *IL-1RN* 86-bp VNTR
- 7. *IL-1B* C-31T + *TNF-A* T-1031C
- 8. *p21* Arg31Ser + *p53* Arg72Pro
- 9. *Secretor* (*FUT2*) A385T (*Se, sej*) + *se5*

Multiplex PCR-CTPP for NQO1 C609T, GSTM1, and GSTT1





GSTT1		507	bp
NQ01	common	403	bp
NQ01	609T	283	bp
GSTM1		219	bp
NQ01	609C	161	bp

NQO1	CC	CT	TT									
GSTM1	_	_	_	+	+	+	_	_	_	+	+	+
GST T1	_	_	_	_	_	_	+	+	+	+	+	+

遺伝子多型研究

Interleukin 1B 多型の genotypingからスタート。 C-511T, C-31T: 日本ではC-T, T-Cがリンク、白人ではC-C, T-Tがリンク (Nature 2000)。Natureの論文が訂正

<u>Hamajima N</u>, Matsuo K, Saito T, Tajima K, Okuma K, Yamao K, Tominaga S. Interleukin 1 polymorphisms, lifestyle factors, and *Helicobacter pylori* infection. Jpn J Cancer Res 92: 383-389, 2001.

Helicobacter 感染

IL-1A C-899T, IL-1B C-511T, IL-1B C-31T, IL-1RN 86-bp VNTR, IL-8 T-251A, IL-10 T-819C, Le (FUT3) T59G, MPO G-463A, Se (FUT2) Se, sej, se5, TNF-A C-857T, TNF-A G-308A, TNF-B A252G, TNF-B Asn26Thr, etc.

がん罹患

IL-1B C-31T, *CYP17*, *COMT*, *COX2*, *ADRB2*, *ADRB3*, *MPO* G-463A, *MTHFR* C677T, *MTHFR* A1298C, *MS* A2756G, *PLD2*, *OGG1* Ser327Cys, etc.

喫煙習慣

IL-1B C-31T, IL-6 C-634G, IL-8 T-251A, TPH C218A, CYP2A6 Del/Ins,MPO G-463A, DRD2 taq1, APE1 Asp148Glu, XRCC1 Arg399Gln, etc.

コレステロール、糖尿病

PTPN11 G/A, PPARG2 Pro12Ala

因子環境交互作用

食道がん: 喫煙, ALDH2, L-myc、肺がん: 喫煙, APE1 Asp148Glu, XRCC1 Arg399Gln, L-myc

PCR-CTPP: PCR with confronting two-pair primers

ARMS-PCR: amplification refractory mutation system PCR

	PCR-CTPP	ARMS-PCR
多型部分の塩基	内側プラマーの3′端最後の塩基	内側プライマーの3'近く
最初の論文	2000 (Hamajima et al)	1989 (Newton et al)
PubMed 収載論文数*	113 編	1,047 編
特許	国内:1993年日本人(検査会社) が申請し、取り下げ。	不明
可能な多型	SNP、Del/Ins 多型、繰り返し配列	

* 2021年1月7日時点

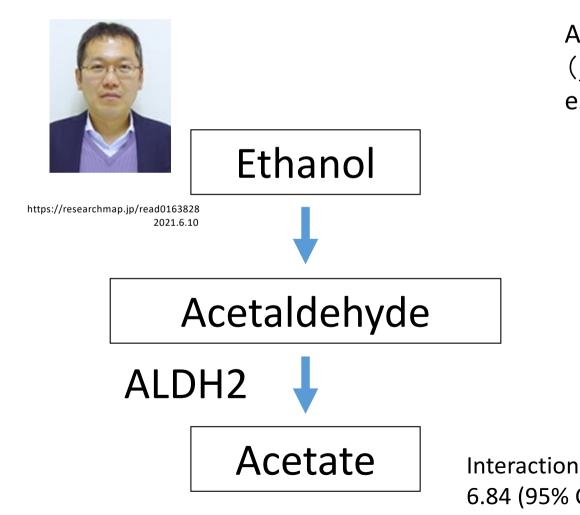
<u>Hamajima N</u>, Saito T, Matsuo K, Kozaki K, Takahashi T, Tajima K. Polymerase chain reaction with confronting two-pair primers for polymorphism genotyping. Jpn J Cancer Res 91: 865-868, 2000.

Newton CR et al. Analysis of any point mutation in DNA. The amplification refractory mutation system (ARMS). Nucleic Acids Res 17: 2503-2516, 1989.

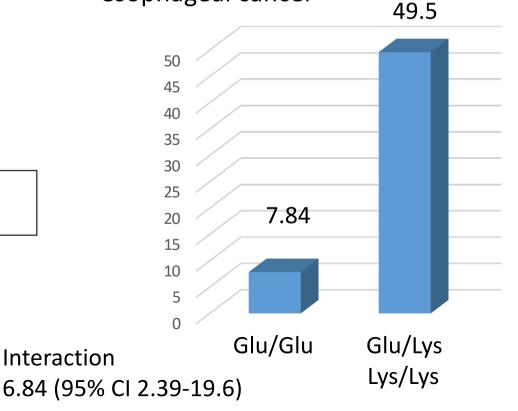
Carcinogenesis 22; 913-6, 2001

Gene-environment interaction between an aldehyde dehydrogenase-2 (ALDH2) polymorphism and alcohol consumption for the risk of esophageal cancer

Matsuo K, Hamajima N, Shinoda M, Hatooka S, Inoue M, Takezaki T, Tajima K



Age-sex-adjusted OR of alcohol drinking (>5 days/week, >75ml ethanol /day) for esophageal cancer



中日新聞

月間

(第3世紀世報提明)

遺伝子がすべて? 2002年7月26日 第1話

2003年2月21日 第20話

い。GluLys器の人が一合 GluGlu器の人が二

(Glie) は、グルターン

がら、 弊な値で出撃 一人成立三味

年から遺伝子の研究をスタート する。2000年4月から現職。

適位子検査を行う愛知県がんセンター研究所の浜島

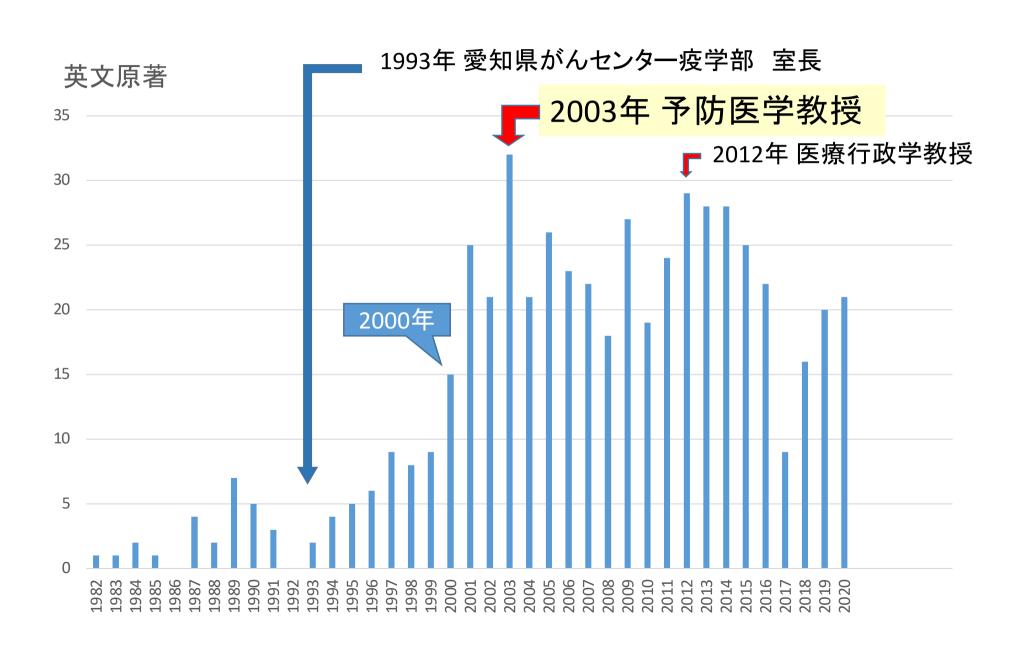


2003年(平成15年) 2月21日(金曜日)

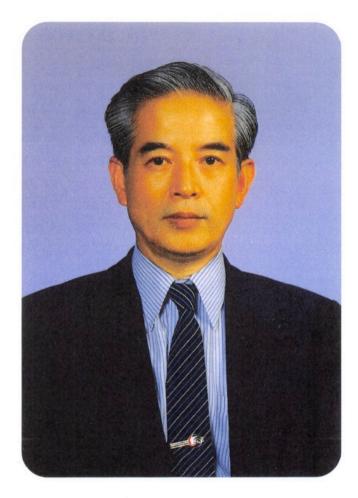
イラスト・西尾 香美

というとになる ドにさらされる臓器は食道

浜島信之 業績



名古屋大学大学院医学系研究科 予防医学



青木國雄教授近影



大野良之教授

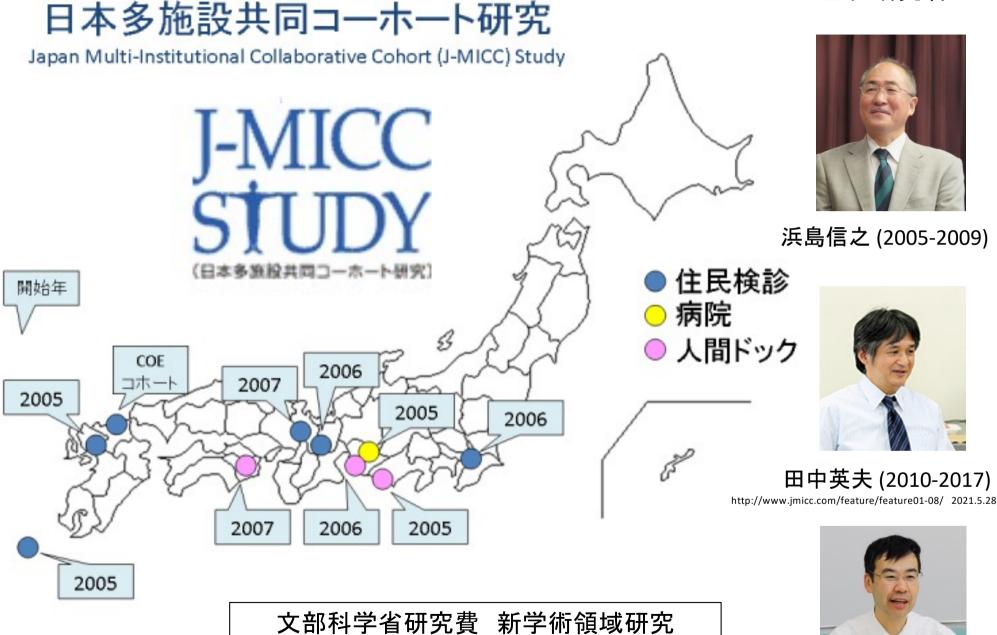
「青木國雄退官記念誌」より

「大野良之教授退官記念」より

2003年予防医学教室同門会



主任研究者



文部科字省研究費 新字術領域研究 「学術研究支援基盤形成」の助成による 健康追跡 10万人×20年調査

若井建志 (2017-現在) http://www.jmicc.com/organization/chief/2021.5.28

J-MICC研究実施機関 責任者

千葉県がんセンター研究局がん予防センター 神奈川県立がんセンター臨床研究所 静岡県立大学食品栄養科学部公衆衛生学 名古屋大学大学院医学系研究科予防医学

愛知県がんセンター研究所疫学・予防部)

名古屋市立大学大学院医学研究科公衆衛生学

滋賀医科大学公衆衛生学、敦賀市立看護大学

京都府立医科大学大学院医学研究科地域保健医療疫学

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部予防医学 九州大学大学院医学研究院予防医学

九州大学大学院医学研究院感染環境医学、感染制御学

佐賀大学医学部予防医学 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科国際島嶼医療学 三上春夫(2005-現在) 成松宏人(2016-現在) 栗木清典(2010-現在) 浜島信之(2005-2013) 内藤真理子(2013-2018) 若井建志(2018-2019) 竹内研時(2019-現在) 田島和雄(2005-2008

田中英夫(2009-2017) 松尾恵太郎(2017-現在) 徳留信寛(2005-2009) 鈴木貞夫(2009-現在) 上島弘嗣(2005-2009) 喜多義邦(2009-現在) 渡邊能行(2005-2018) 上原里稈(2019-現在) 有澤孝吉(2006-現在) 古野純典(2005-2013) 大中佳三(2013-2016) 古庄憲浩(2010-2018) 池崎裕昭(2019-現在) 田中恵太郎(2005-現在) 嶽崎俊郎(2005-現在)



J-MICC 業績

http://www.jmicc.com/

* 2021年1月7日時点

J-MICC 全体に関する論文 共同研究に関する論文 各研究グループの論文 46編

36編

161 編

J-MICC 全体に関する学会発表 共同研究に関する学会発表 各研究グループの学会発表 84 回

32 回

606 回

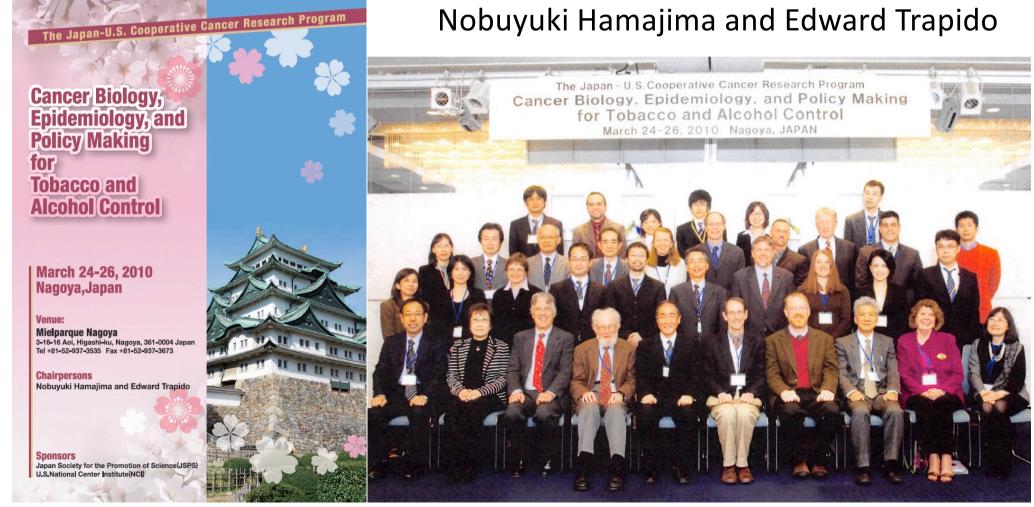


The Japan – U.S. Cooperative Cancer Research Program

Cancer Biology, Epidemiology, and Policy Making for Tobacco and Alcohol Control

March 24-26, 2010 Nagoya Japan

Chairpersons:



伊賀市コホート研究

2013年9月19日 伊賀市立上野総合市民病院運営会議

菱田 朝陽、浜島 信之 名古屋大学大学院医学系研究科 医療行政学





http://mieha.jp/wp-content/uploads/2021/03/伊賀上野城10.jpg 2021.6.10

あなたのご協力がみんなの明日につながります

伊賀市コホート研究の調査に ご協力ください



伊智市





伊賀市コホート研究

研究責任者: 名古屋大学大学院医学系研究科

医療行政学 教授 浜島 信之

共同研究機関:伊賀市立上野総合市民病院

院長 三木 誓雄

(本研究は伊賀市の研究補助金を受けて行われています)

千葉県がんセンター 愛知県がんセンター 名古屋大学 名古屋市立大学 滋賀医科大学 京都府立大学 九州大学 佐賀大学 鹿児島大学 徳島大学 静岡県立大学





(文部科学省・新学術領域研究)

伊賀市ピロリ菌除菌事業 ピロリ菌感染率と除菌による医療費への影響



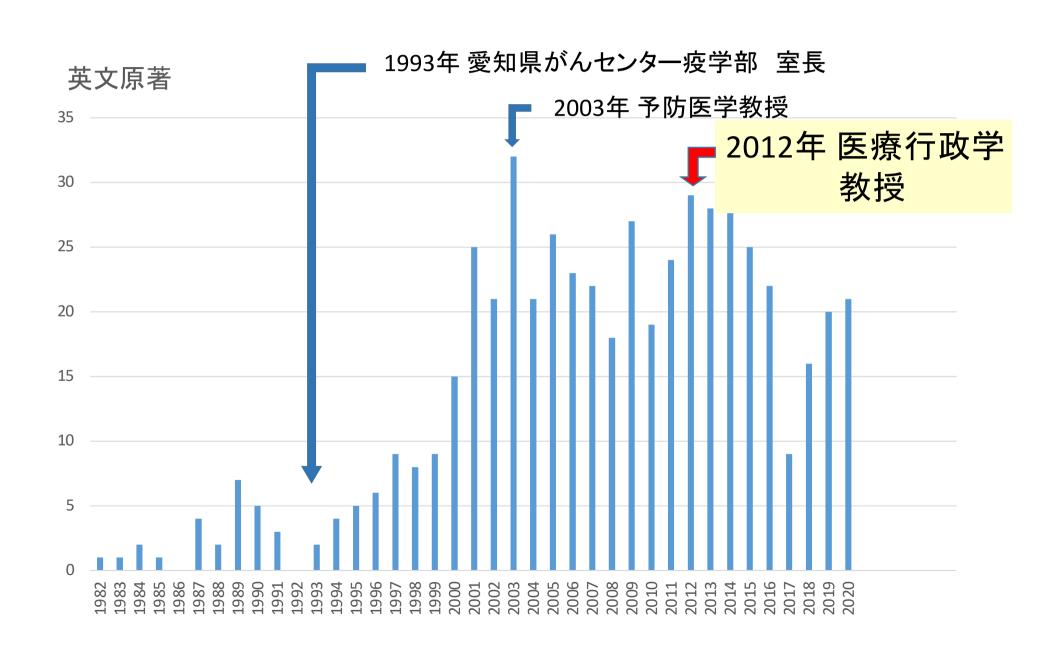


Wikipedia

2020年3月24日 伊賀市市役所での最終報告 浜島 信之

名古屋大学大学院医学系研究科医療行政学

浜島信之 業績



The 25th Annual Scientific Meeting of the Japan Epidemiological Association IA 第25回 日本疫学会学術総会 信ラ 子院医学系研究科予防医学 期日:2015年1月21日(永)~23日(金) 古屋市中村区名駅4丁目4-38 (名古屋駅から徒歩5分) https://jeaweb.jp/activities/annual_meetings/no25/index.html 2021.5

総会事務局

名古屋大学大学院医学系研究科予防医学 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65

電話: 052-744-2132 FAX: 052-744-2971

運営準備室

日本コンベンションサービス株式会社 中部支社内 〒460-0003 名古屋市中区錦 3-6-35

名古屋郵船ビル4階 電話: 052-957-2131 FAX: 052-954-2355

E-mail: jea25th@convention.co.jp

第25回日本疫学会学術総会「医療行政から見た疫学研究、疫学から見た医療行政」 2015年1月22日 12:45-13:15 名古屋 ウインクあいち大ホール

学会長講演 President Lecture

疫学研究から医療行政へ

Epidemiologic study to healthcare administration

浜島信之

名古屋大学医学系研究科医療行政学

Nobuyuki Hamajima,

Department of Healthcare Administration Nagoya University Graduate School of Medicine

著作権上の都合により、この写真は削除されました。

2012年12月から 医療行政学教授 ヤングリーダーズ プログラム担当

研究から教育、アジア支援活動へ

医療行政学スタッフ











O Postdoctoral fellow
Su Myat Cho
O PhD students
Souphalak Inthaphatha
Nguyen Thi Thanh Tam

〇教員(2012	2年以降在職者)	
吉田佳督	Yoshitoku Yoshida	(2008-16)
廣澤友也	Tomoya Hirosawa	(2012-13)
樋口倫代	Michiyo Higuchi	(2013-14)
Joshua A. R	leyer	(2014-16)
山本英子	Eiko Yamamoto	(2014-)
Saw Yu Mor	า	(2016-)
狩谷哲芳 Te	etsuyoshi Kariya	(2016-21)
鈴木雄之典	Yunosukei Suzuki	(2020-)
○職員(2012	2年以降在職者)	
比嘉綾	•	(2007 - 17)
清水いつ子	Itsuko Shimizu	(2013 - 17)
林理恵子	Rieko Hayashi	(2013 - 14)
平丸良枝	Yoshie Hiramaru	(2014 - 16)
姜竹	Jiang Zhu	(2016 - 17)
佐野朋香	Tomoka Sano	(2017 - 19)
大平佳代	Kayo Ohira	(2017 - 18)
馬場敦子	Atsuko Baba	(2017 -)
緒方佑香	Yuka Ogata	(2018 - 19)
疋田浩子	Hiroko Hikida	(2018 -)
島本恵子	Keiko Shimamoto	(2019 - 20)
那須敏子	Toshiko Nasu	(2019 -)

医療行政学 教員

2003 05 07 09 11 13 15 17 19 21

伊藤勝基 教授

西村秋生 准教授

坂本純一 教授

森田智視 准教授

吉田佳督 准教授

Md Harun Or Rashid 助教

廣澤友也 助教、准教授

浜島信之 教授

樋口倫代 准教授

Joshua A Reyer 助教

山本英子 准教授

Saw Yu Mon 講師、准教授

狩谷哲芳 助教

鈴木雄之典 助教

医療行政学 教員

伊藤勝基 教授

西村秋生 准教授

坂本純一 教授

森田智視 准教授

吉田佳督 准教授

Md Harun Or Rashid 助教

廣澤友也 助教、准教授

浜島信之 教授

樋口倫代 准教授

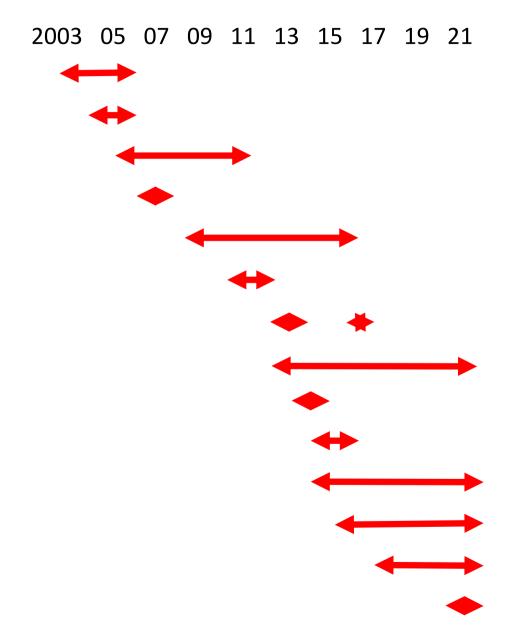
Joshua A Reyer 助教

山本英子 准教授

Saw Yu Mon 講師、准教授

狩谷哲芳 助教

鈴木雄之典 助教



医療行政学教室の使命

教育

- 1. ヤングリーダーズプログラム (YLP) 修士コース 文部科学省の奨学金制度: 教授1人、准教授1人の人件費
- 2. 国家中枢人材養成プログラム博士課程 (医学系研究科はYLP卒業生が対象) 名古屋大学の奨学制度:特任教員が配属 卒業生7名 在学生6名
- 3. 医療行政に関するシンポジウム、短期研修コースの開催

人事交流

- 1. YLP卒業生との交流
- 2. モンゴルとの学部生交流
- 3. モンゴルとの教員交流
- 4. ミャンマーとの教員交流

著作権上の都合により、この写真は削除されました。

共同研究支援/独自の研究

厚生労働省職員

予防医学教室

日野原友佳子(国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 疾患基礎研究事業部 部長) 富田耕太郎(環境省 水·大気環境局大気環境課) 服部雄太(WHO西太平洋事務局)

医療行政学

西村秋生(-2004)

吉田佳督(-2008)

廣澤友也(人事交流 2013-2016)

狩谷哲芳(人事交流 2021-)

Young Leaders' Program

An academic program sponsored by Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology of Japan, to invite promising young administrators mainly from Asian countries and to provide a master degree in one year.

Government course Local governance course

National Graduate Institute for Policy Studies: GRIPS

Healthcare Administration course

Nagoya University

Business course

Hitotsubashi University

Law course

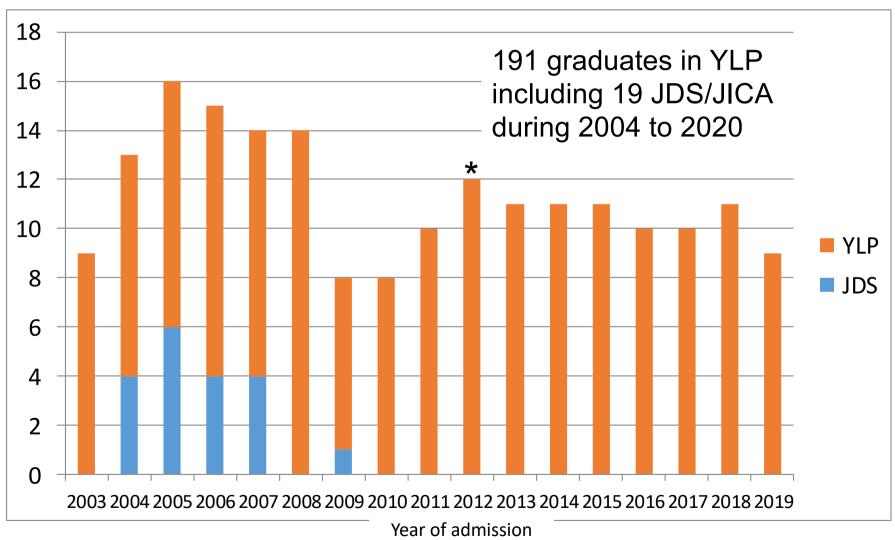
Kyusyu University

著作権上の都合により、この写真は削除されました。



Nagoya University YLP/JDS participants

according to year of admission



*Including 1 withdrawn participant

JDS: Japanese Grant Aid for Human Resource Development Scholarship JICA: Japan International Cooperation Agency





8 モンゴル支部 2009年9月3日設立 支部長: Altantuya Jigjidsuren



② ミャンマー支部 2013年6月29日 支部長: Nang Hla Hla Win

Dr. Bounfeng Phoummalaysith

ヤングリーダーズプログラム(1年修士コース) 1期生 2003-04 国家中枢人材養成プログラム(4年博士コース) 1期生 2014-18



2016年6月13-14日 ラオスの首都ビエンチャンで International Symposium: Health Systems Strengthening and Sustainable Financing towards Universal Health Coverage開催。事 務局長を務める。 2016年 ラオス保健省の医療保険局長 2019年11月 ラオス保健省の副大臣に就任 2021年3月 ラオス保健省の大臣に就任

The 10th Anniversary of Young Leaders' Program at Nagoya University on October 17, 2013 YLP在卒業生 129名中



医学系研究科 教授

医学系研究科 教授

医学系研究科 参与 名誉教授

附属病院病 院長

医学系研究科 科長

古村 融政策研究大学院大学 特別参与

名古屋大学 総長

外務省 外務副報道官文部科学省 審議官

厚生労働省大臣官房 審議官外務省 外務副報道官

'LP 一期生 同窓会モンゴル支部長'LP 一期生 同窓会ラオス支部長'LP 一期生 同窓会ラオス支部長

Altantuya Jigjidsuren 文部科学省 学生留学生課長

横井 太アルフレッ サホールディングス

敬称略

Young Leaders' Program at Nagova University: The 10th Anniversary Celebration on Oct. 17, 2013

About 50 YLP graduates who work for the government in Asia as well as about 60 participants from Ministries of Education, Foreign Affairs, Health, related universities and institutions in Japan, attended the ceremony. Mongolian Minister of Health addressed the congratulatory speech.



Ceremony room



Ms Kumiko Bando, Deputy Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology



graduate, Cabinet of Ministry of Health, Laos PDR

Prof. Michinari

Nagoya University

Hamaguchi, President of



Dr. Altantuya Jigjidsuren, YLP graduate, Asian Development Bank



Mr Koichi Mizushima, Deputy Director-General for Press and Public **Diplomacy**



Minister's Secretariat, Minister of

Health, Labour and Welfare

Dr. Udval Natsag, Minister of Health, Mongolia



Mr. Hiroaki Shinhara, Councillor,





Prof. Masahide Takahashi. Prof. Katsuki Ito, Nagoya University Graduate School of Medicine

Prof. Toru Yoshimura, Board of Trustees, National **Graduate Institure for Policy Studies**

The 15th Anniversary of Young Leaders' Program at Nagoya University on September 26, 2018 YLP在卒業生 182名中



医学系研究科 教授

医学系研究科 教授

附属病院病 院長伊藤 勝基伊藤 勝基医学系研究科 参与 名誉教授

医学系研究科 科長石黒 直樹

名古屋大学 総長

小栗 孝明文部科学省 学生·留学生課専門官

厚労省大臣官房 厚生科学課長 一 三上 陽一

大山 達雄政策研究大学院大学名誉教授

改部科学省 学生留学生課長

横井 太 ルフレッ サホールディングス

青山里会理事長

敬称略

Contents of the course

Public health

- Epidemiology
- Biostatistics
- Occupational and environmental health
- Community health and international health
- Medical law
- Policy-oriented research
- Project design

Master thesis

- Data analysis
- How to write papers

Healthcare administration

- Facilities and professionals
- Regulations
- Hospital management
- Pharmacy management
- Outlines of clinical medicine
- Health insurance and economics

Leadership
Human resources management

Field trips / site visits

Knowledge, experiences, and thesis

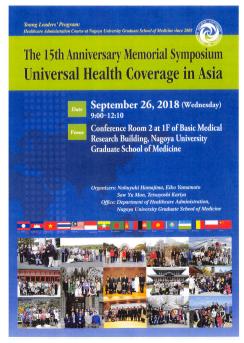
Symposia related on YLP

- The 10th Anniversary Memorial Symposium on October 17, 2013: Healthcare Administration in Asia - the Present and the Future
- The 1st Healthcare
 Administration Symposium of YLP on June 19, 2015:
 Healthcare in Myanmar
- The 2nd Healthcare
 Administration Symposium for
 YLP and Leading Graduate
 Program: Well-Being in Asia on
 December 9, 2015: Healthcare
 in Lao PDR
- The 15th Anniversary Memorial Symposium on September 26, 2018: Universal Health Coverage in Asia









International Symposium on Universal Health Coverage 2016 Health Systems Strengthening and Sustainable Financing

The Challenge of Coverage Expansion of Informal Sector toward to Universal Health Coverage

Date: June 13-14, 2016

Venue: National Convention Center, 13th South Road, Sivilay

Village, Saysetha District, Vientiane Capital, Lao PDR

President: Bounkong Sihavong, Minister of Health, Lao PDR

Co-president: Seiichi Matsuo, President of Nagoya University, Japan

Organizers: Ministry of Health, Lao PDR

Nagoya University, Japan





Keynote presentation 1: "Going Universal" How 24 countries are implementing universal health coverage from the bottom up, Dr. Somil Nagpal (The World Bank)

Keynote presentation 2: Universal health coverage in Japan: outline and problems, Prof. Nobuyuki Hamajima (Nagoya University)



COMMUNICATION FOR BEHAVIOURAL IMPACT (COMBI) IN HEALTH AND SOCIAL DEVELOPMENT

Based on the WHO and New York University Annual Summer Institute Training Programme

Dates: May 28- June 8, 2018

Location: Tsurumai Campus, Nagoya University, JAPAN

Jointly organised with

Faculty of: New York University, Indiana University, The COMBI Institute, World Health Organization (WHO), United Nations Children's Fund(UNICEF), United Nations Population Programme (UNFPA), and NICHIKO Japan.

Course Coordinator: Dr. Everold N. Hosein

Adjunct Professor New York University and Indiana University Senior Communication Advisor- World Health Organization (WHO) Communication Consultant to UNICEF, UNFPA, UNDP President, The COMBI Institute

著作権上の都合により、この写真は削除されました。



2019年5月22日発行

名古屋大学医学部学生と モンゴル国立医科学大学学生との交流

医療行政学 浜島 信之 (S55卒)







これまでの学生交流の期日と学生ワークショップのテーマ

	モンゴル研修			名古屋研修			
年度	期日	テーマ	参加人数	期	日	テーマ	参加人数
2015	8/24 ~ 8/29	結 核	4	1/25 ~	- 1/30	心筋梗塞	5
2016	8/22 ~ 8/27	糖尿病	4	1/23 ~	- 1/28	脂質異常症	5
2017	参加者がなかったため開催せず			1/22 ~	- 1/27	肝 炎	6
2018	8/20 ~ 8/25	母子保健	7	1/28 ~	2/2	腎 不 全	5

参加人数は学生数。モンゴルからは毎回1名の MNUMS 教員が同行。モンゴルへ は教員、大学院生、近隣の医師が数名同行。



モンゴルの活動

2013年10月17日Udval Natsag モンゴル保健大臣から名古屋 大学YLPチームへの感謝状





CERTIFICATE OF APPRECIATION Gentafully to the Young Leadership Program team of the Nagova University, Japan. On behalf of the Government of Magazin and regalf I would the is county offered you involvable could distinct to viernathrough borner materiar for health in Magazin by institing a field of booking qualified fields booking professionally and amula like in respect first without to all of your Burpartfully, Minimum for Health July Me West Name 17 October 2017

2014年9月7日モンゴル国立医科学大学 学長Batbaatar Gunchin学長から感謝状。

2018年10月23日D. Sarangerelモンゴル 保健大臣からの浜島が感謝メダル

ХҮНДЭТ ТЭМДЭГ



番号 642

The 15th YLP Anniversary at Nagoya University in 2018 Myanmar YLP graduates



ヤンゴン近郊の寺子屋



ヤンゴン近郊の寺子屋



マンダレー近郊の孤児院







白癬 tinea

足白癬 tinea pedis 水虫

爪白癬 tinea anguium

手白癬 tinea manus

体部白癬 tinea corporis たむし

股部白癬 tinea cruris

頭部白癬 tinea captis しらくも

Celsus禿瘡(とくそう) kerion

白癬菌性毛瘡(もうそう) sycosis trichophytica

白癬菌性肉芽腫(にくげしゅ) granuloma trichophyticum

著作権の都合により画像を削除しました





創設者 吉岡秀人のプロフィール

1965年8月 大阪府吹田市生まれ。大分大学医学部を卒業後、大阪、神奈川の救急病院で勤務

1995年~1997年ミャンマーにて医療活動に従事 1997年~2001年 国立岡山病院勤務小児外科医師 2001年~2003年3月 川崎医科大学勤務小児外科講師 2003年4月~現在 再びミャンマーにて医療活動に従事



2004年4月 国際医療ボランティア団体ジャパンハート設立

2017年6月 特定非営利活動法人ジャパンハート最高顧問就任





Victoria Hospital

near Yangon Airport

- 100 床の入院病床
- 従業員500人、うち医師40人 (米国人1人、フランス人1人を含む)。 最近名古屋の病院から1名の医師 を派遣。
- CTとMRI を装備。
- ICUあり。
- 手術室4室
- 分娩室2室。年間500人出産。
- 4人部屋: 1晚 35 USD
- ロイヤルスイートルーム: 1晩180 USD



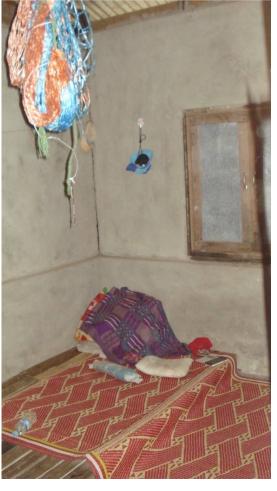
ミャンマーの地方での出産

(ヤンゴンから車で1時間の地域)

1施設に助産婦1名と事務職1名:国の命令で赴任

- 半径5kmにある5つの 村(人口 6,000人)を担 当。
- -年間150 人の出産を支援。
- 病院の支援あり。
- 月給約100 米ドル。









Rural childbirth care

at one hour outside from the center of Yangon

Limited resources, but much better than no services. It is a great step.







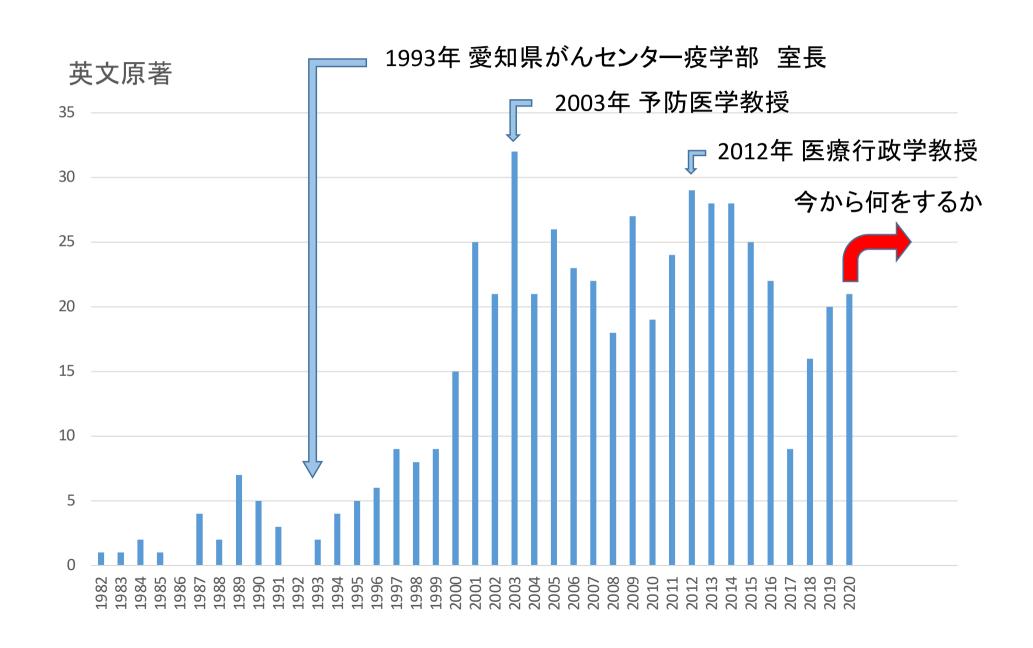




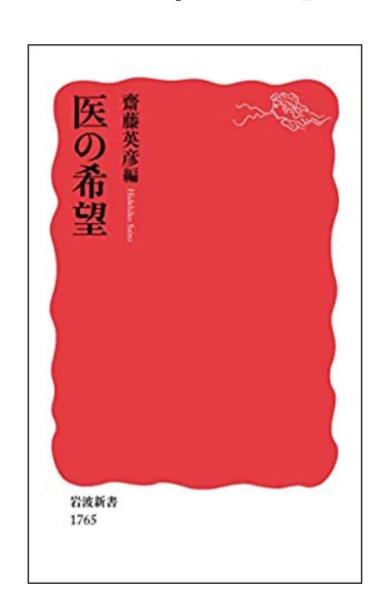




浜島信之 業績



これまでの積み重ねは これからの人生のためにあった



207~229頁

アジアの医療とその支援 浜島信之

公衆衛生の精神に返る 地域の状況にあった医療システム 人材育成への支援 YLPで若い医療行政官を養成 ソーシャル・フランチャイズ マイクロクレジット ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ 日本の保険医療制度への示唆 医の希望

アジアサテライトキャンパス学院特 任教員 2021年4月~2022年3月

対象国:ミャンマー

拠点: The University of Public Health, Yangon (UoPH)

目的:人事交流、共同研究を通して研究人材の育成

対象国:モンゴル

拠点: Mongolian National University of Medical Sciences (MNUMS) and Mongolian Japan Teaching Hospital (MJTH, University Hospital of MNUMS)

目的: 医学日本語教育、MJTHの医療水準向上支援

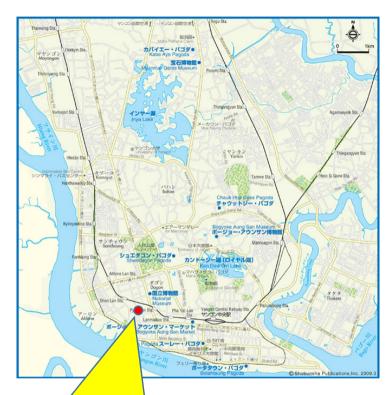
対象国:ラオス

拠点:保健省、National Institute of Public Health、

National Cancer Center

ヤンゴン

+



University of Medicine I
University of Public Health













©Wikipedia





JICA MYANMAR OFFICE

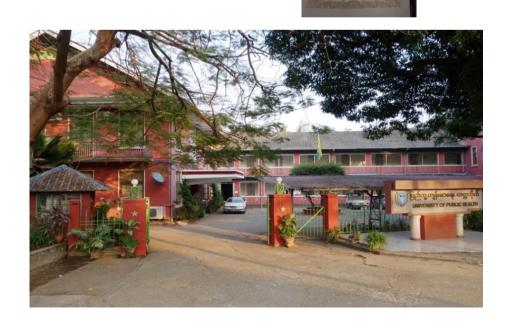
The University of Public Health, Yangon (UoPH)

UoPHはミャンマー唯一の公衆衛生大学院大学。 2007年ヤンゴンの第一医科大学に隣接して設立。学長のHla Hla Win教授 9つの講座があり、Master of Public Health (MPH), PhDを授与。

学生は公立病院や政府での勤務歴のある医師。 2018年の学生数は127人。教員は50人程度である。 2020年2月24日付けで名古屋大学医学系研究科と MOU締結。

Myanmar 研究者と当教室教員との共著論 文 19編

BMC Health Serv Res 2編、BMC Open 1編、BMC Public Health 2編、Heliyon 1編、Int J Infect Dis 1編、Nagoya J Med Sci 6編、Nutrition 1編、PLoS One 4編、Vaccine 1編



Mongolian National University of Medical Sciences (MNUMS)

モンゴル国立医科大学は、1942年に設置されたモンゴルで唯一の国立の医科系技術者養成機関。

Mongolian Japan Teaching Hospital (MJTH, University Hospital of MNUMS)

モンゴル日本教育病院は、国際協力機構 (JICA)の無償資金協力により、2019年に完成した、モンゴル国立医科学大学に付属する 第3次医療、第2次医療を提供する教育病院



- 1. MNUMSの外国語センターにおいて医学日本語教育についての相談:セミナー開催、モンゴル語日本語医学辞書作成。
- 2. MJTHにて支援内容の確定、専門家の派遣。

途上国の保健支援



独立行政法人 国際協力機構

GHIT

Fund

Global Health Innovative Technology Fund





ミャンマーで見た 日本の救急車

岡崎市消防署





一般社団法人日本国際保健医療学会 Japan Association for International Health

長崎大学熱帯医学研究所



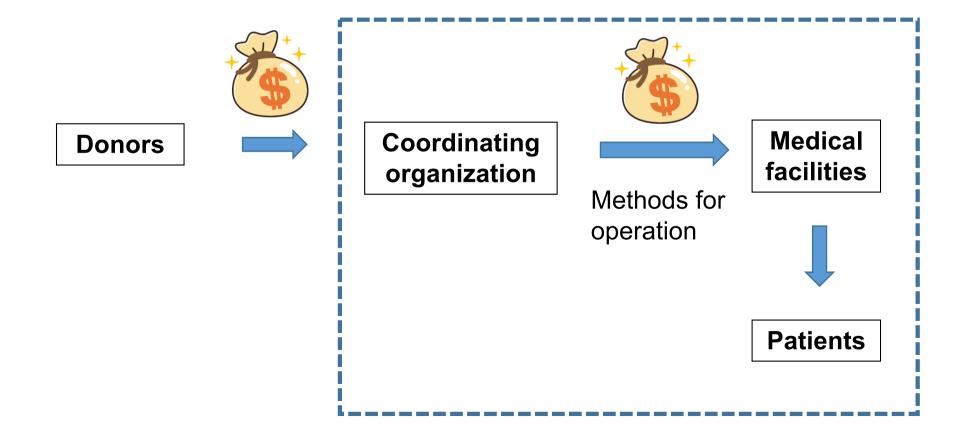


Social franchising



https://en.wikipedia.org/wiki/Social_franchising

Social franchising is the application of commercial franchising concepts to achieve socially beneficial ends, rather than profit.



Social franchising

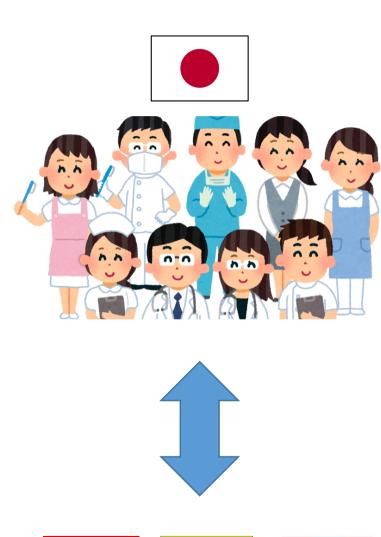


https://en.wikipedia.org/wiki/Social_franchising

Franchise Name	Country	Coordinating Organization	Date Founded	Number of Clinics
Sun Quality Health (Myanmar)	Myanmar	Population Services International	2001	846
Sun Quality Health (Cambodia)	Cambodia	Population Services International	2002	164
Well-Family Midwife Clinics	Philippines	Well-Family Midwife Clinic	1997	100
FriendlyCare (Philippines)	Philippines	FriendlyCare	1999	6
Andalan	Indonesia	DKT International	2001	5,000
Blue Star (Bangladesh)	Bangladesh	Social Marketing Company	1998	3,600

Family Planning, HIV, Sexual and Reproductive Health, Maternal and Child Health, Tuberculosis, Malaria, Other

アジアの言語の習得活動+人事交流支援



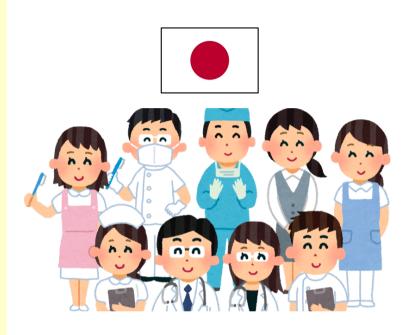


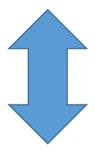




アジアの言語の習得活動+人事交流支援

Family name Given name 浜島 信之 はまじま のぶゆき ハマジマ ノブユキ Hamajima Nobuyuki 하마지마 노부유키 Хамажима Нубүюүки ဟာမာဂျီမာ နိုဘုယုက်ီ ພະກະຢູກະ ໂກະດີຄຸນ











謝辞

- 名古屋大学医学部予防医学教室の先生方、職員の皆様
- 岐阜大学医学部公衆衛生学の先生方、職員の皆様
- ・愛知県がんセンター研究所疫学予防部の先生方、職 員の皆様
- 名古屋大学医学系研究科医療行政学の先生方、職員の皆様
- 疫学懇話会、日本疫学会の先生方

これまでのご指導、ご厚意に心から感謝申し上げます。